

第147回

岩手朝日テレビ放送番組審議会

議 事 録

(平成23年4月)

2011.4.21

株式会社 岩手朝日テレビ

第147回 放送番組審議会議事録

1. 開催日時 平成 23年 4月 21日 (木) 11時～
2. 開催場所 岩手朝日テレビ 3階 会議室
3. 委員の出席

委員総数 7名

出席委員数 5名

委員長	増子 義孝
副委員長	村田 久
委員	小田島 利昭
委員	笠川 さゆり
委員	そのだ つくし

欠席委員数 2名

委員	弭間 俊則
委員	吉田 政司

会社側出席者名

代表取締役社長	富永 健治
専務取締役	辻 一成
取締役総務局長	小林 直紀
取締役	長生 正広
技術局長	作山 聖志
報道制作局長	佐々木 貴
報道制作部長	鈴木 敦
編成業務局長兼放送番組審議会事務局長	落合 成範
番組審議会事務局	佐藤 清一

4. 議 題

(1) 合評番組
「東日本大震災報道全般」

(2) 5月単発番組について

(3) 次回審議会

開 催 日：平成23年5月25日(水)11時～
岩手朝日テレビ 3階 会議室

合評課題： 「命てんでんこ」

放送日時： 平成23年4月23日(土)16時30分～17時00分
平成23年5月1日(日)25時30分～26時00分(再放送)

5. 概 要

- ※ 富永社長より、あいさつの中で東日本大震災にて犠牲になった方や被害を被った方へのお悔やみ、お見舞いの言葉があった。
- ※ 同じく社長より震災発生直後から現在までの系列を含めた取材体制の概要が説明された。
- ※ この4月「開局15周年」を大々的にスタートさせる予定だったが一部事業については控えることにした。
- ※ 落合事務局長から、5月の単発番組と視聴率に付いて説明があった。
- ※ 震災報道について、一過性の報道でなくテレビ局として復旧・復興の状況を伝えてほしい。
- ※ 長時間の停電によって、普段テレビを通じていかに多くの情報を得ているか改めて認識させられた。
- ※ 衝撃的な映像をいつまでも流すのは、考えてほしい。
- ※ 子供向けの番組をもう少し早く復活させて欲しかった。

- ※ 宮古の駐在カメラマンの衝撃的映像には、息を飲んだ。
- ※ 映像を茶の間に届け続けたカメラマンも被災していて、それでもカメラを向けなければならない報道姿勢に心打たれた。
- ※ テレビ局として、何が問題でどのようにすれば良いのかを継続取材・報道してほしい。説得力あるのは、被災者の生の声だと思う。

6. 議事の内容

落合事務局長 それでは、只今より、第147回岩手朝日テレビ放送番組審議会を始めます。

 それでは、増子委員長、議事をお願いいたします。

増子委員長 それでは富永社長、一言お願いします。
今年度最初の番組審議会ですが、審議会のメンバーの変更はございません。このメンバーで1年間、宜しくお願いいたします。

富永社長 東日本大震災では、多くの方々が犠牲となり未だに行方不明の方々が多数いらっしゃいます。

 東北太平洋沿岸は壊滅的な状況となりました。

 岩手朝日テレビでは、大震災発生後直ちに取材体制をとり非常対策本部を立ち上げました。

 岩手県全体が停電となりましたが、本社非常用発電機により放送を続けました。

 発生直後に、大船渡、釜石、久慈に取材クルーを出しました。

 沿岸の特派員やお天気カメラの衝撃的な映像が入ってきて、津波の被害の大きさに愕然としました。

 テレビ朝日系列では、「ANN取材本部」を立ち上げ、系列各局から被災3県に応援のクルーや衛星で映像を送ることができるA-SAT車を配備しました。

 IATには、A-SAT車2台（IATのA-SAT車を入れて3台となります）とカメラクルーや記者、デスクなど50名ほどが系列各局から応援にきてくれました。

 当初は燃料や物資（主には食糧、飲料）がない中、また、今まで経験したことのない広範囲におよぶ大災害で、取材や番組編成では局の実力が問われる状況でした。

 ローカル局としてもっともっとやるべきことや、やらなければならないことがあったのではないかと、いろいろ考えさせられました。

IATの被害としては、いくつかの中継局でアンテナが曲がったり、鉄塔の基礎部分を止めているボルトの破損などがありました。また、陸前島部（陸前高田）のデジタル受信装置の流失がありましたが、現在は仮の設備で運用しております。

東北ブロックで共同運行しておりますヘリコプターを仙台空港に駐機しておりましたが、津波により流失してしまいました。スタビライザーや自動追尾装置などのデジタルの最新機材を搭載しており、2009年9月に導入したばかりのものでした。

今回の大震災により全国的に全てが自粛ムードとなっております。IATでは4月1日に「開局15周年」を大々的にスタートすることにしておりましたが、静かにスタートし、5月のGWに予定していた「ゴエティフェスタ」は秋に延期する予定です。ミニ番組の「ありがとうの手紙」は予定通り4月6日にスタートしました。

イベントとしては、6月に予定しております「はやぶさ展」は実施いたします。

増子委員長

ありがとうございました。何かご質問等ございませんか？
ないようですので、視聴率と単発番組についてお願いします。

落合事務局長

では5月の単発番組と視聴率についてお話しさせていただきます。1日には来月の合評課題でもあります、「テレメンタリー 続・命てんでんこ 津波と歩んだ人生」の放送を予定しております。チリ津波から50年。放送は第二弾となります。

14日にはドラマスペシャル「最後の晚餐」ミステリースペシャル。物語はとあるレストランに11名の客が招待されることから始まる。犯人はいったい誰でその目的は何なのか、過去の因果それぞれの事情すべての容疑者の真相を解き明かしながら驚愕と感動のラストへと導く内容となっておりますのでぜひご覧ください。

震災の影響で番組の情報が少なくご迷惑をおかけしております。

視聴率ですが、4月17日から24日の週の一週目の数字しかまだ出ておりません。14日以降マイナス0.3%、順位を下げています。民放4局とも数字を下げています。震災関連でNHKさんのニュースが数字を上げています。これに関連して報道ステーションも2月に比べますと数字が上がっています。

増子委員長

ありがとうございました。ほかに何ご質問などございますか。やはりニュースの数字は高いですね。他に何かご質問などございませんか？では、合評課題に移ります。

小田島委員

今お話にありましたが、NHKのニュースを私も見ていました。今回の震災報道について、ニュース解説者の論評を聞いていて不平もあります。その中では、日曜日のサンデーフロントラインは、内容がとてもわかりやすく良かったですね。テレビのテロップ情報はとても役に立つと思いました。

「つながろう日本」ドキュメンタリーでは、東北大学の教授や、原発事故の作業員のご家族が出ていました。西田敏行さんのナレーションで聞きやすく内容も濃く良い番組でした。

今回、津波で数多くの犠牲者が出ていて、その中で陸前高田市長の奥さまなど、いろいろな番組で取り上げられていますが、一過性の話題にすることなく、テレビの力を使って、復興の状況や今その地域はどのような状況下にあるのか等を伝えてほしいと思います。それがテレビの使命感だと考えて放送して欲しいと思います。

また、この話題だけではなく、どこかの局でその話題を取り上げると各局同じようにその話題を放送しますね。被災された地域はたくさんあるのですから、同じ地域だけを各局取り上げるのではなく、各局で違う地域を分けて取材しているような地域の情報を放送してください。ぜひ取材の工夫をお願いします。

笠川委員

今回の震災で長い時間の停電を経験し、テレビを見られない時間はとても不安でした。日頃、テレビより当たり前に情報を得ておりましたが、まったく情報が入らない。映像の力はこんなに大きいと改めて考えさせられました。電気がつくと普段以上にテレビを見たような気がします。

津波の起きた現地での取材で、各局アナウンサーが現場から生の情報を伝えていましたが、IATのアナウンサーの存在は各局の中でも薄いように思いました。一番若い地元のテレビ局だからでしょうか。テレビ岩手のごきげんテレビやIBCの「じゃじゃじゃTV」等は印象に残りましたが、私の中で印象が残ったアナウンサーはIATでは藤原さんだけでした。楽茶間MCをしているからか、藤原さんの印象だけでした。ごきげんテレビの平井アナウンサーは地元でもとても存在感を出していますし、もう少しIATアナウンサーの地元意識を強く出して欲しいです。

テロップ情報はめんこいテレビさんがいち早く情報を提供していました。被災地の情報もとても重要ですが、盛岡の情報、ごみの収集日や生活情報など、めんこいさんは詳しく情報をアップしていました。

逆にIATさんは普通の番組に戻るのも早いですね。被災地の情報をいつまで流すのか、このあたりも重要ですが、あまり衝撃的な映像をいつまでも流すのはどうなのか。被災者の心理状態を考えながら放送して欲しいと思います。

そのだ委員

地震後、ツイッターや携帯のワンセグを利用して情報を得ていました。

ニュース番組はとても大事だと思いますが、子供向けの番組をもう少し早く再開して欲しかったと思います。避難所には数多くの方々がおり、小さい子供さんも多いことと思います。そんな子供たちのために、避難所にいるだけでも大変なそんな時間を紛らわせるためにも子供向けの番組を早く流して欲しかったと感じました。

震災から一カ月が経過して、悪いニュースも中にはあり、窃盗や自殺、被災地を聖地のような扱いで放送されている番組もありました。

そんな中、子供の入学式の様子や笑顔の映像には癒されました。

このような甚大な被害が起きるとテレビの偉大さがわかります。テレビは情報を知る大事な役割があるので、ワンパターンな作りではなく、工夫がされている番組作りに期待しています。

村田副委員長

悪夢としか言えない未曾有な大震災を目の当たりにして言葉もなく打ちひしがれてしまいました。

友人が行方不明であったり、両親を亡くした友人もいたり、これほど身近に災害の痛みを感じたことはありませんでした。それだけ一連の報道は情報を得るうえで大切でした。

地震発生時からの朝日テレビの情報発信は他社と比較して早い立ち上げだったと思います。被災地でのスタッフの取材もスムーズに見えました。

Jチャンネル・IATスーパーJチャンネル・報道ステーションと連携した報道はより詳細にわかりやすい内容にまとめられ伝達されていたのが印象的でした。刻々と伝えられる映像による被災地の状況、避難所での人々の声などが救助する側を突き動かし、視聴者の心をつかんだと言える半面恐怖

もありました。

岩手朝日テレビ宮古支局の工藤カメラマンが撮影した押し寄せる津波の映像に息をのみました。こんなむごい映像は撮りたくないと思いつつもカメラマンは、カメラを構え続けたと聞きました。映像を茶の間に届けたカメラマンも大津波によって被害を受けていると知りました。報道カメラマンの姿勢に心が打たれました。

原発による放射能の数値、ミリシーベルトは一般的にはわからない単位なので、できればその単位で数値が安全なのか、明記してもらえると視聴者は安心できるでしょう。

今回の大津波により陸と海の境がなくなっているところもあり、天気予報において、沿岸の地域を区分けして高潮注意報を明記しているのは被災地にとって大きな情報といえるでしょう。これからも是非続けてほしいと思います。

震災・津波・原発と先行きが不安な面もありますが、それを払しょくするのは日本人の助け合いの絆の深さや優しさであるということを今回改めて感じました。日本人の良さを再認識しました。必ず復興できることを確信することができました。

増子委員長

私の個人的な意見でお話ししますと、地震の情報を見るすべがなかったというのが現実です。ラジオもないし、ワンセグもなく、知り合いのところで映像を見て改めて震災の大きさを知りました。

報道ステーションを見ましたが、ボランティアの方が足りないとか、どんなものが足りないとかネット等へ書き込むとすぐに、ものすごい数の物資が届く状況を見てビックリしました。

I A Tの震災の報道は本当に早かったですね。工藤カメラマンの津波の映像もギリギリのところまで津波が押し寄せているのにもかかわらずよく捉えました。褒めてあげてくださいね。

これから先、被災地の方々は、今後どのようにして生活をしていけばよいのかを考えると不安だと思います。今後、何が問題で何をどのようにすればよいのかを継続的に取材・報道して欲しいと思います。説得力があるのは被災者の生の声だと思います。被災者の立場から考えてあげてください。

映像では映し出されない、いろいろな問題もあることでしょう。取材する方々は被災者の立場に立って、少しでも視聴者に思いが伝わるような番組の制作に期待しています。

落合事務局長 では次回についてご説明申し上げます。
次回は、5月25日水曜日の午前11時から弊社3階会議室
で開催いたします。合評課題は「命てんでんこ」です。今回
同様、貴重なご意見をお待ちしております。

増子委員長 それでは終了します。ありがとうございました。

7. 審議機関の答申または改善意見に対してとった措置

ご指摘頂いた点を、今後の番組作りの参考とすることとした。

8. 審議機関の答申または意見の概要の公表

4月28日朝刊、朝日新聞岩手県版に審議概要を掲載。
系列各局に議事録を送付。
本社受付に議事録を常備、閲覧に供す。
インターネットホームページに掲載。

9. その他の参考事項

特になし

10. 配布資料

- ◎ 5月単発番組編成予定表
- ◎ 4月岩手地区視聴率